

熊取町議会委員会会議録

議員全員協議会

令和元年6月20日開催

熊取町議会

目 次

〔議員全員協議会（6月20日）〕

その他	1
1. 道路橋梁長寿命化修繕計画について	1
2. 大型カルバート等長寿命化修繕計画について	3

議員全員協議会

月 日 令和元年6月20日(木曜)招集

場 所 熊取町役場北館3階大会議室

出席議員	1	番	田中圭介	2	番	大林隆昭
	3	番	浦川佳浩	4	番	坂上昌史
	5	番	田中豊一	6	番	鱧谷陽子
	7	番	文野慎治	8	番	重光俊則
	9	番	二見裕子	10	番	渡辺豊子
	11	番	河合弘樹	12	番	矢野正憲
	13	番	江川慶子	14	番	坂上巳生男

欠席議員 なし

説明員	町長	藤原敏司	副町長	中尾清彦
	総合政策部長	南和仁	総合政策部理事	明松大介
	総合政策部理事 兼財政課長	東野秀毅	総務部長	林利秀
	都市整備部長	矢部義雄	企画経営課長	橘和彦
	人事課長	道端秀明	道路課長	山原栄次
事務局	議会事務局長	藤原伸彦	書記	藤原孝二

案件

1) その他

1. 道路橋梁長寿命化修繕計画について
2. 大型カルバート等長寿命化修繕計画について

議長(矢野正憲君) 皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、議員全員協議会にご出席を賜り、ありがとうございます。

なお、本協議会には町長ほか関係職員の出席をいただいております。

ただいまの出席議員は14名全員であります。定足数に達しておりますので、ただいまから議員全員協議会を開会いたします。

(「13時30分」開会)

議長(矢野正憲君) 本日は、報告案件が2件となっております。

なお、発言をされる方は、必ずマイクを使っていただきますようお願いいたします。

それでは、道路橋梁長寿命化修繕計画について報告願います。山原道路課長。

道路課長(山原栄次君) それでは、お手元の資料、2部ございますが、1つ目の熊取町道路橋梁長寿命化修繕計画についてという分をごらんいただけますでしょうか。

それでは、熊取町道路橋梁長寿命化修繕計画についてご説明いたします。

本計画につきましては、平成29年度に橋梁の定期点検を実施いたしました。その結果に基づきまして、平成30年度において、平成26年3月に策定いたしました前計画の時点修正を行ったもので、基本的な考え方は前計画とは変更ございません。

それでは、お手元の資料の1ページをお開きください。

まず、背景と目的でございます。本町の管理する橋梁のうち、町道の橋梁数は43橋ございます。そのうち供用年数が50年を経過した高齢化橋梁数は、現在9橋、全体の21%でございますが、20年

後には27橋、全体の63%に急増し、今後、老朽化した橋梁の修繕やかけかえに当たり、多大な費用が一時的に集中することが予想されます。

このような背景のもと、維持管理費用の縮減や平準化を図るために熊取町道路橋梁長寿命化修繕計画を策定し、従来の事後対応型の維持管理から計画的な予防保全型に転換し、町内の道路網の継続的な安全性、信頼性を確保することを目的とするものでございます。

2ページ目をごらんください。

対象施設でございます。本町が管理いたしております道路橋梁43橋を対象としてございます。内訳については記載のとおりでございます。

次に、計画期間でございます。5年に1回の定期点検サイクルを踏まえまして、点検間隔が明らかになるよう計画期間は10年としております。なお、点検結果を踏まえ、適宜計画を更新するものでございます。

3ページ目をごらんください。

対策の優先順位の考え方でございます。

まず、健全性の判定区分につきましては、点検結果から、Ⅰ、健全、構造物の機能に支障が生じない状態、Ⅱ、予防保全段階、構造物の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずべき状態、Ⅲ、早期措置段階、構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態、Ⅳ、緊急措置段階、構造物の機能に支障が生じている、または生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態の4段階に分類してございます。

次に、重要度の評価の設定につきましては、立地条件から、道路の交通量、それと地域緊急交通路及び避難路に指定されているか、また迂回路の有無、橋梁規模から、橋長、橋の長さや添架物件の有無を考慮いたしまして、橋梁の重要度を点数つけてございます。

次に、優先順位につきましては、健全性の判定区分により、状態の悪い橋梁を優先上位とし、判定区分が同じ橋梁につきましては、健全性の算出に用いた損傷評価点の70%と重要度の評価点の30%の割合で合計し、合計値が高い橋梁より優先順位をつけてございます。

4ページをごらんください。

個別橋梁の状態でございます。平成29年度に、大阪府橋梁点検要領に基づき、橋梁点検を実施いたしました。点検の結果、緊急措置段階Ⅳである橋梁はございませんでした。次に、早期措置段階Ⅲである橋梁が3橋、予防保全段階のⅡである橋梁が3橋、残りの37橋が健全Ⅰという結果になってございます。

先ほど説明いたしました優先順位の考え方で並べたものが、次の表となっております。

次に、5ページをごらんください。

維持管理方針でございます。日常点検では、修繕が必要な箇所の早期発見に努めます。また、5年ごとに定期点検を実施し、橋梁の状態変化を把握し、損傷が悪化する前に修繕を実施いたします。

次に、対策内容、実施時期、対策費用でございます。対策の優先順位の考え方及び個別橋梁の状況を踏まえ、検討した優先順位で計画的な措置を講じます。

下の表は、判定区分Ⅲ及び判定区分Ⅱの橋梁の現時点での修繕予定を示したものでございます。ただし、実施時期につきましては、交付金等の状況により変更となる可能性もあり、確定したものではありません。また、今後行う定期点検の結果におきまして、状況に応じ、優先順位が変更となる場合もございます。

6ページをごらんください。

長寿命化計画の内容でございます。

長寿命化修繕計画のイメージとしまして、右上のグラフで説明させていただきます。グラフにつきましては、横軸に経過年数、縦軸を健全度とし、健全度は下に行くほど低下するというグラフになってございます。グラフのピンク色の線がこれまでの維持管理、いわゆる事後対応型となっております。経年により健全度が低下し、使用限界に達した後にかけかえを行うものでございます。

グラフの青線が長寿命化計画による予防保全型となっておりまして、経過年数が進むに従い、縦軸の健全度が低下していき、一定の基準値まで低下した時点で適宜修繕を繰り返すことにより、施設の長寿命化を図り、かけかえ時期を引き延ばすなど、効率的で効果的な維持管理を実施するものでございます。

次に、長寿命化修繕計画による効果でございます。グラフにお示ししているとおり、これまでの事後対応型の維持管理に比べ、予防保全型の維持管理を行うことによりまして、事業費の大幅な縮減が見込めるものとなっております。概算費用とはなりますが、事後対応型での50年間の総費用が約38億円となっているものに対し、予防保全型で50年間の総費用が約22億円となり、当該道路橋梁長寿命化修繕計画に基づき維持管理を行うことにより、事業費が約16億円の縮減効果があるものと試算してございます。

今後も引き続き、道路橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁の適正な維持管理に努めてまいります。

熊取町道路橋梁長寿命化修繕計画についての説明は以上でございます。

議長（矢野正憲君）次に、大型カルバート等長寿命化修繕計画について報告願います。山原道路課長。道路課長（山原栄次君）それでは、2つ目の資料をごらんください。

それでは、熊取町大型ボックスカルバート等長寿命化修繕計画についてご説明いたします。

お手元の資料の1ページをお開きください。

まず、本計画策定の背景と目的でございます。本町が管理する大型ボックスカルバート等につきましては、整備後、数十年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、今後の財政負担を軽減するため、道路法で定められた5年ごとの定期点検を実施し、従来の事後対応型から予防保全型に転換することで施設の長寿命化を図り、コスト縮減を目指すものでございます。当該計画に係る考え方につきましては、先ほど説明いたしました橋梁長寿命化修繕計画の基本的な考え方と変わりはございません。

2ページ目をごらんください。

まず、大型ボックスカルバート編でございます。

まず、1つ目の対象施設でございます。町道和田南山の手台線にございます大型ボックスカルバートでございます。計画期間につきましては、5年に1回の定期点検サイクルを踏まえ、点検間隔が明らかとなるよう計画期間は10年としてございます。なお、点検結果を踏まえ、適宜計画を更新するものでございます。

3ページ目をごらんください。

(2)の健全性の判定区分につきましては、橋梁と同じく4段階で判定を行います。

次に、④施設の状態・対策内容・実施時期・対策費用でございます。当該施設は、平成30年度に定期点検を実施し、健全性区分は予防保全段階Ⅱとなっております。その際、一部モルタルの剝離等がございましたので、直営におきまして修繕を行ってございます。対策費用はかかってございません。次回の点検は、令和5年度に実施予定でございます。

4ページ目をごらんください。

横断歩道橋編でございます。

対象施設につきましては、町道府住1号線にございます横断歩道橋でございます。計画期間につきましては、5年に1回の定期点検サイクルを踏まえまして、点検間隔が明らかとなるよう計画期間は10年としてございます。なお、点検結果を踏まえ、適宜計画を更新するものでございます。

5ページ目をごらんください。

健全性の判定区分につきましては、橋梁と同じく4段階で判定を行います。

④の施設の状態・対策内容・実施時期・対策費用でございます。当該施設は、平成26年度に点検を実施し、健全性区分は早期措置段階のⅢとなっておりますので、平成29年度に橋面防水、塗装の塗りかえなど修繕工事を実施いたしました。対策費用は2,380万円となっております。次回

点検は、今年度実施予定でございます。

6ページをごらんください。

熊取駅東西自由通路編でございます。

まず、対象施設につきましては、熊取駅東西自由通路で、道路を横断している袴道区間と線路を横断している跨線区間と分類してございます。

次に、2番、計画期間でございますが、5年に1回の定期点検サイクルを踏まえまして、点検間隔が明らかとなるよう計画期間は10年としてございます。なお、点検結果を踏まえ、適宜計画を更新するものです。

7ページをごらんください。

健全性の判定区分につきましては、橋梁と同じく4段階で判定を行います。

次に、④施設の状態・対策内容・実施時期・対策費用でございます。当該施設は、袴道区間は平成30年度に点検を実施いたしまして、健全性区分は健全Ⅰとなっております。なお、昨年9月の台風の影響で高欄のパネルが1枚破損してございましたが、昨年度中に修繕は完了してございます。

袴線の点検につきましては、今年度、実施してございます。次回点検は、令和5年度に実施予定でございます。

今後引き続き、長寿命化修繕計画に基づき、施設の適正な維持管理に努めてまいります。

熊取町大型ボックスカルバート等長寿命化修繕計画についての説明は以上でございます。

議長（矢野正憲君）報告が終わりました。ただいまの報告2件について、一括して質疑をお受けいたします。質疑はありませんか。渡辺議員。

10番（渡辺豊子君）今、修繕計画のほうをご報告いただいて、一応点検して改修した部分もあるところのあわせてのご報告だったんですけれども、計画を立てて長寿命化を図り、また早期発見することで長寿化ができるわけなんですけど、その対策費というのは一応国からの補助、社会資本整備交付金ですか、計画があることによってそれを活用できるのかということと、今回、今、横断歩道とかも2,380万円かかってやっているんですけど、その分もそういったものが活用できたのかということをご説明お願いしたいと思います。

議長（矢野正憲君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）議員ご指摘のとおり、この修繕計画につきましては、交付金を受けるがための計画——ためのというところちょっとおかしいかもわかりませんが——交付金を受ける前提として長寿命化修繕計画を立てなさいということになってございます。そのために、計画のほうを立てさせていただきます。

橋梁につきましては、今ご説明させていただいたように43橋ございますので、当然点検を行って、優先度をつけて、優先度の高いものから対策していくということで考えてございます。あと、こちらの大型ボックスカルバート等ということで3施設ございますが、これについても、今後、交付金を受けて修繕するにはこの計画が必要ということになってございますので、施設を3つ合わせていただいて1つの計画ということで策定させていただいてございます。

あと、今、当然、実施してございます橋梁の修繕工事ですとか、今ご指摘ありました美熊台の横断歩道橋の修繕等も交付金のほうは受けさせていただいて対応はしてございます。

以上です。

議長（矢野正憲君）ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認めます。以上で質疑を終了いたします。

そのほか、何かご報告等があれば承ります。

（「なし」の声あり）

ないようですので、以上で議員全員協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

(「13時48分」閉会)

以上の協議会の次第は議会事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

議長

矢野正憲